

尊厳死 かごしま

第 20 号

発行 日本尊厳死協会 かごしま
 事務局 〒890-0064 鹿児島市鴨池新町11-23
 「今村病院分院」内
 TEL 099-251-2221 FAX 099-251-2279
 URL <http://www5f.biglobe.ne.jp/~osame/sonngen/index-s.html>

第19回「公開懇話会」2月27日開催

日本尊厳死協会かごしま 理事 井上 従 昭

日本尊厳死協会・かごしまの第19回公開懇話会が、平成22年2月27日（土）にかごしま市民福祉プラザで、日本尊厳死協会・かごしまの監事である伊東安男さん（社会福祉法人建昌福社会理事長）を講師に招いて「ターミナルケアを実践して～在宅介護施設の挑戦」のテーマで開催されました。今回の懇話会は、講師お一人のお話でなく、伊東さんの基調となる講話の後に、実際の事例を踏まえつつ、現場の職員の方に建昌福社会の取り組みをご紹介いただく形をとりました。報告をしてくださったのは、在宅ケアセンターさざんか園の介護支援専門員の青山澄子さんとさざんか園のセンター長での池田秀之さんのお二人でした。建昌福社会の理念と、その理念に基づく実践をお聞きすることができるという、非常に内容の濃い、充実した懇話会でした。50名の参加者がありました。

●伊東さんの福祉理念

伊東さんが福祉に携わるようになったのは、子どもが大好きであったことと、高齢者の在宅福祉に取り組みたいという思いがあったからです。その伊東さんの今日まで貫かれている福祉理念は「高齢者に生きがいを、子どもたちに優しさを、障がい者に人間としての尊厳を」です。どこでも同じ内容のサービスを提供する日本の福祉のあり方や、分離を基本とする障がい害児教育のあり方に疑問を持ち、一人ひとりが尊重され、地域の中で生活していけるような取り組みを続けてこられました。制度化される前から取り組まれた「宅老所」、障がい児のデイサービスセンター、そして地域の子育て支援センターなど、今本当に求められている支援を具体化してこられました。

●いのちの尊厳を守ることの基盤

伊東さんは家族の協力のもとにお父様を在宅で看取られる経験をされたことや、仕事の関係で訪問された与論島で「在宅死8割の島」という事実に触れるなど、在宅で死を看取ることの大切さを考える機会を重ねられました。また内山名誉会長との出会いがご縁で、尊厳死協会・かごしまに設立当初から関わってこられ、特に3年間は事務局長をつとめられました。いのちの尊厳を守ることを基盤に置いた、在宅ケアについて先進的な取り組みを続けられる基盤は、様々な人々との出会いの中にあることを感じました。また、ご自身ががんであることを宣告されたときに、知識があるから宣告されても大丈夫だろうと思っていたものが、もろくも崩れてしまいました。その苦悩の中で誰に相談したらよいのか、どのようなサポートが必要なのかというキメ細かなケアがないと患者は不安になるということを実感されました。そのような体験が、今の実践につながっているのです。



●ターミナルケアに対する思い

「自分が生まれ育った地域で、その人らしく、人生の最後を家族に見守られながら、在宅で終末介

護を選択する」ことが伊東さんのターミナルケアに対する理念です。その理念を実践するためには、「スタッフの質、24時間ホームヘルプ、医療との連携を始め関係機関との連携、家族との連携と家族との理解、介護者への周囲の理解」であり、この理念の具体的実践を、事例を通して、青山さん、池田さんがお話してくださいました。



●尊厳ある終末介護の在り方

～みんなが家族のようでした～

在宅ケアセンターさざんか園の介護支援専門員の青山さんは、在宅で家族や関係施設の連携のもとに最期を迎えた男性Yさんの事例を報告されました。自宅で妻とゆっくり過ごしたいという思いを持つYさんと、その思いに応えたいと思う妻（ただ、自分がどこまでできるか不安を抱えておられた）、その母を心配して自分ができることはやりたいと思っている娘、それぞれの思いを大切に、それぞれの不安を消すために青山さんを中心にして、関係する施設が連携して様々な取り組みが進められました。詳細を報告することはできませんが、患者・家族の思いを中心にして（そのために思いを探り、寄り添うということを貫かれました）最後まで支え続けられた姿に感銘を受けました。特に、本人がしたいことを引き出してそのことを実現すること（パチンコに行くこと）で、患者に「希望」や「期待」や「生きているという実感」を、妻にも「夫の存在が心に確かなものとしての残る」を残したエピソードは深く心に残りました。

●在宅支援事業に係る実践と課題

～身寄りがない方の尊厳ある生活の場を考える～

さざんか園センター長の池田さんは、身寄り

のないHさんが尊厳ある最後を迎えるまでの取り組みを報告されました。Hさんは身寄りもなく、その上他人から借金を作らされてしまうという厳しい状況にありました。このHさんの生活を支えるために、借金を作らせた他人から守るために他の町の施設とも連携を取りながら支え続けます。しかしながら自分の生家していた町に帰りたいというHさんの思いに応えるために、池田さんを中心として、医療機関・福祉施設・町の福祉課とも連携を取ります。身寄りのない方の生活を支え、その看取りやお葬儀にいたるまでをケアしていくためには、行政までも巻き込んでしっかりと連携していくことが必要であり、そのことを実現することによって最後まで支えきった取り組みは、参加者に安心を与えました。

●実践を聞いて

伊東さんの理念を聞き、その理念を具現化している現場の実践を聞いて、参加者からは「報道などで痛ましい事実を聞いたりすることがありますが、このようにすばらしい活動をしておられるチームがあることに安心しました」「身寄りのない人に多くの方が関わって大事に最後を迎えられるように努力されていることに感動しました」「利用者の尊厳を大切にする思いが感じられてうれしい体験でした」「理事長先生の理念が実践につながって本当にすばらしいです。ここまで個別に対応してくださることに感動しました」などの感想が寄せられました。



“尊厳死出前講座”のご案内

この講座は、日本尊厳死協会の会員以外の方々でも、皆様のご要望や申込みにお応えして、私共の役員がおうかがいして「安楽死と尊厳死の違い」など尊厳死に関わるさまざまな問題についてご説明したり意見交換を行うものです。

・申し込みできるのは

10人以上で構成される団体やグループなど、

・時間・場所は

時間は原則として90分以内、日程と開催場所は講師の都合と調整させていただきます。

・講師料等は

講師料は原則として無料ですが、会場使用料や講座に必要な器具等は、申込者で用意していただきます。

なお、鹿児島市内から遠隔地の場合は、交通費の負担に関して相談させていただく場合があります。

・申込みは

①団体名②代表者名及び担当者③連絡先住所及び電話番号等④希望日時⑤希望講座内容（出来るだけ詳しく）⑥実施会場
上記を事務局までご連絡下さい。

平成21年度“尊厳死出前講座”の実施状況

- 9月 植村病院（尊厳死について・講師 納 光弘）
- 10月 国分生協病院（私にとっての尊厳死・講師 納 光弘）
- 1月 上町健康大学（尊厳ある死を考える・講師 内山 裕）
- 2月 加世田医療福祉専門学校（医療の原点と尊厳死・講師 内山 裕）

★ 会員の声、読者の声への投稿をお待ちいたしております。

ホームページのご紹介

尊厳死かごしまのホームページをご覧になりましたでしょうか？

かんたんなホームページの見方

インターネットを開き、の中に文字を入力する（検索エンジン）がありますので、“尊厳死かごしま”と入力し、探す（検索）ボタンをクリックしてください。

次に検索結果表示画面になりますので納光弘のホームページと表示されている所をクリックしますと、ホームページ閲覧できます。

★ 内山裕名誉会長より、満85歳誕生記念として、金5万円也の寄付をいただきました。
有り難うございました。

トピックス

★ 納光弘会長は多趣味で行動力を随所に発揮されていますが、この度第11回桜島美術展に応募され817点中の大賞、ならびにギャラリー賞を受賞、さらに第45回日展日本画部春季展に入選されました。

およろこび申し上げます。

絵の照会は、納光弘のホームページで検索するとすぐできます。



桜島美術展大賞作品
題（月照南岳）

-----平成22年度総会・公開講演会のご案内-----

と き： 平成22年4月17日（土） 午後2時～4時

ところ： 鹿児島県歴史資料センター「黎明館」講堂

演 題： 「生と死」を考える
－公衆衛生医60年の足跡から－

講 師： 内山 裕 先生（日本尊厳死協会かごしま名誉会長）

● 講師プロフィール

1. 大正14年鹿児島市生まれ
2. 鹿児島大学医学部卒、医学博士
3. 昭和25年から40年間、公衆衛生・環境行政に従事
県下各保健所長、県環境局長、県衛生部長等を歴任
4. 平成2年から16年間、財団法人鹿児島県環境技術協会理事長
5. 平成8年から6年間、日本尊厳死協会かごしま会長続いて、現在まで名誉会長
6. 昭和47年から現在まで、鹿児島大学医学部非常勤講師
7. 平成13年、勲三等瑞宝章受章

● 入場無料 ●

-----第20回「公開懇話会」のご案内-----

と き： 平成22年9月5日（日） 午後2時（開場1時30分）～4時

ところ： かごしま市民福祉プラザ5階大会議室 鹿児島市山下町15番1号
(TEL 099-221-6070)

演 題： 「がんと共に生きる」

講 師： 三好 綾 先生（がんサポートかごしま代表）

● 入場無料 ●

編集後記

新型インフルエンザが台風のごとく過ぎ去り、心配したほどの大流行もなくホットしているところ。政治の世界も民主党政権になり、これから日本がどう変わっていくのかと期待もいたしましたが……。立春も過ぎ春の息吹を感じる季節になり外出もやすくなりました。4月17日平成22年度総会・公開講演会への出席をお待ちいたしております。
(M. U)